D−9 共働き家庭における親子の生活時間とその接点に関する研究（第2報）

宇都宮大教育　金崎芙美子

目的　第25回日本家政学会総会において、サラリーマン家庭における親子の生活時間とその接点に関する第1の考察を行ったが、今回は母親が自家営業、農業、内職（パートを含む）に従事する家庭を対象に報告を行う。同時にそれらに関する職業別の比較を行う。

方法　本研究の目的にたいした質問紙を作成。内容は第1報と同じように生活時間に関するものと、親子の接触に関する具体的調査項目。対象は保育所児父母計1095名、そのうち自家営業（231名）農業（211名）内職（334名）計776名

結果　①自家営業家庭、農家、内職の家庭の週日休日の生活時間はサラリーマン家庭においてみたようなちがいはみられない。②それらの家庭はいずれも母が家にいる家庭で、朝夕の時間も比較的早く、接触時間が短かいことについて不安をもっている者は少ない。子どもに対しては放任や無関心が多く、「生活は親中心」と答えたものはサラリーマン家庭より多い。③父親の育児参加の状態はサラリーマン家庭と比較され、排せつ、洗濯、食事の世話など養護的役割をとる父親は少なく、父子関係を発展させる日常的なかかわり合いの可能性はうすい　④日曜日の過し方などにおいても、子どもをデパートなどにつれてゆくなど、子どもへのサービス的活動はサラリーマン家庭よりすくなく、家庭内の掃除や洗濯などで終ることが多い。